

受理第6－3号

## 請 願 書

件 名

市立中学校の校則の在り方についての請願

紹介議員

佐々木真由美、宮本 繁夫、坂本 優子、山崎 匡、

大河 直幸、徳永 未来、谷上 晴彦

## 請願項目

1. さまざまな立場の生徒も交えて学校のルールメイキングが出来る土壌を作ること
2. 生徒が自己決定・自己判断のもと自主的に行動できる雰囲気をつくること
3. 学校のルールをホームページに掲載し、ルール作成に至った経緯も含めて、いつでも確認できるようにすること

## 請願趣旨

今、世の中は多様性の時代とされ、多様な個性や価値観への理解がより一層重要となり、社会全体が変化を求められています。

私は宇治市の市立中学校に通っている中学3年生です。元より学校には、校則等のルールが存在しています。私の通っている学校にも、校則のようなルールが存在しています。しかしながら、その内容は、先生から口頭で指導されるだけで、生徒手帳や、書面での記載はなく、学校のホームページにも掲載されていません。そのルールが定められた明確な理由が説明されずに禁止されているものが多く、そのようなルールが定められるに至った経緯もわかりません。

例えば、私は頭髪に関するルールには合理的とはいえない理由が存在すると思っています。一例としては、染髪です。染髪を禁止する理由としてよく言われるのが

- ・非行などトラブルに巻き込まれる
- ・学習の妨げになる
- ・いじめの原因になる
- ・受験に不利になる

というものです。染髪している方は、日常でも多く見かけますが、本当にそのようなことが起きているのでしょうか。社会を見れば、「従業員の身だしなみルールの見直し」が行われ、ヘアカラー、ヘアスタイルの自由化により1人1人の個性や価値観が尊重されるなどの取組が進んでいます。

公立中学校の中には、校則を一切廃止した学校も存在します。世田谷区立の桜丘中学校では、校則を廃止したことで、生徒の成績があがり、いじめ、不登校もなくなったという報告もされていました(参考:『校則をなくした中学校 たったひとつの校長ルール』 西郷孝彦著)。「校則の内容は、社会通念に照らして合理的とみられる範囲内で、学校や地域の実態に応じて適切に定められること」と文科省の「生徒指導提要(令和4年12月)」にも記されています。

「予測不可能な時代」と言われるこれからを生き抜くために、私たち生徒は、「自らの責任のもと、自らの意思や判断に従って行動する力」つまり「主体的に行動できる力」を身に付けることが必要だと考えています。ルールにおいても、先生に言われたことにただ従うだけでなく、そのルールがなぜあるのか、そのルールは本当に必要なのか、生徒の意見も交え、先生の考えも共有して、皆が納得して自主的に守れるようなルールメイキングができるようにして欲しいと私は思っています。

私は、学校で同様の主張を伝えましたが、「生徒会に入って、主張すればいい」と言われました。しかしながら、私は小学生のころから、不登校傾向があり、現在、別室登校をしています。今思えば、私が学校に行きにくい、辛いと感じてきたことの大きな理由のひとつが、納得できないルールが存在とそれによる同調圧力のような雰囲気なのではないかと思っています。今、私は中学3年生でもあり、生徒会に入ることもできません。しかしながら、私が卒業した後になったとしても、今の学校のルールのあり方は見直されるべきだと思い、請願を出すことにしました。文科省の「生徒指導提要（令和4年12月）」には「校則の制定に当たっては、少数派の意見も尊重しつつ、児童生徒個人の能力や自主性を伸ばすものとなるように配慮することも必要です」とも書かれています。このような考えが広く浸透し、ルールメイキングの在り方が見直され、学校に行きにくいと感じる子が少しでも減ればという願いもあります。

そのためにも、私はまず、学校の校則やルールがきちんと明文化され、学校のホームページ等で公開されることを求めます。その上で、どんな立場の生徒でも、校則に異議を唱えることができ、その都度、ルールメイキングの議論ができる風通しの良い環境を、宇治市全部の公立中学校に求めます。

前出の「生徒指導提要（令和4年12月）」には、「校則の見直しの過程に児童生徒自身が参画することは、校則の意義を理解し、自ら校則を守ろうとする意識の醸成につながります。また、校則を見直す際に児童生徒が主体的に参加し意見表明することは、学校のルールを無批判に受け入れるのではなく、自身がその根拠や影響を考え、身近な課題を自ら解決するといった教育的意義を有するものとなります。」と書かれていました。これから社会の一員として生きていく私たち中学生には、主体的に行動できる力が必要です。学校では「自主的に行動しましょう」と、よく言われますが、これは「言われたことだけを自ら進んでやりましょう」ということです。多様化する社会の中で、一方的に決められたルールに従っているだけでは、学生時代の価値観に囚われ続け、ロボットのような大人になってしまうかもしれません。

宇治市全部の公立中学校で、生徒の意見も交え、先生の考えも共有し、生徒が納得して守れるようなルールメイキングをしていけるように、宇治市として、そして、宇治市教育委員会として宇治市公立中学校各校に働きかけてください。そして、その校則やルールをいつでも誰でも確認できるようにオープンにして公開し、生徒たちが自分で考えて行動できるような学校のムードを作って欲しいと願っています。

2024年 12月 23日提出

宇治市議会議長 松峯 茂 殿

請願者名：湯浅 六花